

恵那市地域公共交通計画の概要

(※11/26 恵那市地域公共交通会議にて計画策定予定)

第1章 はじめに

【計画の対象範囲】
 (対象範囲) 恵那市内、地域路線 (対象期間) 2022～2026 年度

【検討体制】
 ・「恵那市地域公共交通会議」にて検討
 ・その下部組織として、各地域における地域交通のあり方を検討する「地域検討会」の設置を図った。

第2章 恵那市における地域公共交通の現状と課題

【バス路線の現状】
 ・東濃鉄道の営業路線が 4 路線、恵那市自主運行バスが 17 路線運行、中津川市コミュニティバスが 2 路線、交通空白地有償運送が 2 路線
 ・令和 2 年度 (R1.10-R2.9) の年間輸送人員は 164 千人で、年間欠損額は (市補填) 172 百万円。
 ・コロナ禍に伴い、直近の落ち込みが大きい。

【課題整理】

○公共交通の新しい役割の必要性
 ・地域路線の利用者の減少は続いており、運行費用も増大。
 ・一方で、高校生送迎の渋滞や、団塊の世代の高齢化に伴う移動需要の発生など、新しい役割も。

○地域・路線ごとの輸送効率の差・地域間格差への対応
 ・収支率で見ると、旧恵那市地域と恵南で大きな差が見られている。
 ・一定の公平性は求められるが、人口密度や年齢別人口分布、地域の就業状況などを鑑みれば、一定の格差が発生するのはやむを得ない。
 ・一定の格差を認めつつ、地域の創意工夫によりその差を埋めていく必要。

○担い手を育てていく必要性
 ・バス・タクシー会社の人手不足は全国的なものであり、東濃地域としても二種免許取得支援などで運転手を育てていく必要があるが、一方で交通空白地有償運送の運転手やスクールバスの運転手なども育てていく必要がある。

○地域の交通課題における地域・交通事業者・市の 3 者の役割分担の必要性
 ・以前の「恵那市地域公共交通計画」で、地域ごとに検討会を開催し、地域に適した交通のあり方の議論をしてきたが、その検討会の成果を一部地域でしか反映ができなかった。
 ・各地域に応じた地域・交通事業者・市の 3 者の役割分担を見つけていく必要。

第3章 計画の基本的な方針

【基本方針】
 地域之力・資源を活用し、地域に適した公共交通を、
 地域・市・交通事業者が協力して、創り・守り・育てる

【基本目標】

施策方針Ⅰ ICT とマンパワーを効果的に活用し、円滑な移動を支援します
 ① 高校生の帰宅支援 ② 市内のデマンド運行の配車オペレータの統合
 ③ 運賃のキャッシュレス化 ④ まちなか循環線

施策方針Ⅱ 公共交通の担い手を育成し、持続可能な公共交通を確保します
 ① タクシー昼間の利活用 ② 職業紹介企業との連携による募集活動
 ③ 資格取得の奨励策の調査・検討 ④ 有償運送等運転手の養成講座の開設

施策方針Ⅲ 地域の取り組みに対して、市は積極的に支援します
 ① 自主運行バスの運営方針
 ② 笠周 3 町内の交通の見直し (有償運送・無償運送の拡充)
 ③ 各地域の取り組み

大井地域	・現状路線に新たな路線の導入を含めた見直しを行い、利便増進を図る	
長島地域	地域検討会にて調整中	
東野地域		・現状路線
三郷地域		・現状路線
武並地域		
笠置地域		
飯地地域		・現状路線
岩村地域		
中野方地域		・現状路線
山岡地域		・現状路線
明智地域		
串原地域	・くしばすの運行エリア拡大や予約など、利便向上	
上矢作地域		

第4章 計画の達成状況の評価

【評価指標】
 ① 地域路線の年間利用者数合計 ② 地域路線の利用者満足度
 ③ 高校生の定期券購入数 (推計実人数) ④ ボランティア運転手登録者数

【計画の評価と検証】
 毎年年度6月に開催される恵那市地域公共交通会議の場で実施